

海津市まちづくり委員会「第3回ふるさと定住促進検討分科会」会議録

開催年月日 平成21年9月29日(火)
開催場所 海津市役所海津町庁舎3階「委員会室」
分科会委員定数 14名
開 会 午前9時30分
閉 会 午前11時30分
出席者 ○分科会委員
岐阜経済大学経済学部教授 池 永 輝 之
公募市民 村 上 碩 也
公募市民 古 川 義 弘
公募市民 本 多 高 洲
公募市民 藤 田 繁 己
公募市民 堀 田 義 郎
公募市民 坂 本 由 貴
公募市民 柴 田 夕 子
公募市民 伊 藤 祥 子
女性人材リスト登録者 安 部 晶 子
女性人材リスト登録者 石 川 晴 代
高須生活学校代表 加 藤 佳 余 子
海津市自治連合会代表 諏 訪 薫

○事務局 企画政策課 課長 木 村 元 康
" 係長 後 藤 政 樹
" 主任 毛 利 卓 司

欠 席 者 公募市民 加々本 絃 一

会議次第

1. 開会
2. 会長あいさつ
3. グループワーク
テーマ「若年世代の市外流出について要因を洗い出す」
4. 事務連絡
5. 閉会

会議録（要約）

事務局	<p>定刻になりましたので、ただいまから海津市まちづくり委員会「ふるさと定住促進検討分科会」第3回目の会議を開催させていただきます。 はじめに藤田会長よりあいさつをお願いします。</p>
会 長	<p>（あいさつ）</p>
事務局	<p>ありがとうございました。 それでは、グループワークに移りたいと思います。 今回は、KJ 法により海津市における「人口流出」「人口減少」について、要因の洗い出しを行いました。そして今回、出された意見を整理して、課題や問題を出してみましようという予定でしたが、世代や地域、性別によって問題が異なり、議論するのに難しいとの声が聞かれました。そこで、会長さんと相談をさせていただき「人口流出」問題に絞って考えていってはどうかということになりました。 理由は、人口減少の要因として少子化問題がありますが、これは国レベルでの政策であり、分科会で検討する（提案する）ことは現実的ではないことがあげられます。しかしながら、資料3をご覧いただくと、合計特殊出生率が下降していますが、夫婦の完結出生児数（夫婦の最終的な出生子ども数）は、2.0人以上をキープしています。つまり、結婚している場合は、平均2人の子どもを儲けていることから、結婚しない男女が増えていることがわかります。したがって、少子化問題は本分科会では議論しませんが、「婚活」や子どもが生まれた後の支援に関しては、議論の対象になるものと考えています。 また、海津市の流出問題に関しては、統計データから転出者の多くが「若年層」であることが分かっています。よって今後の分科会の検討事項としては、「若年層の人口流出」問題に的を絞って検討してまいりたいと思いますのでよろしく願いいたします。</p>
A委員	<p>コミュニティの中心にいる人と外にいる人では、同じ事柄でも価値観の違いによりプラスだったりマイナスになったりします。どちらに重点をおいて議論すればよいですか。</p>
事務局	<p>定住していただくということは、いかにしてこの地域に愛着をもっていただくか、ということが一つのポイントになると思っています。当然、都会へのあこがれや生活環境が整っているほうが魅力的ではありますが、若者に、地域または海津市に対する愛着心を持ってもらう、そうした気持ちを育てていくことが大切なのではないかと思っています。こういったことを議論していただくのも良いかと思いますが、先ほどご質問のあった「コミュニティの中と外」をどう考えていくかを、みなさんと議論していただくのも良いかと思いますがいかがいたしましょうか。</p>
B委員	<p>都会へのあこがれということがあり、外へ出たいと考える子どもが多いようですが、実際に子どもたちに聞いてみてはどうでしょうか。私たち委員は、長年この土地で暮らしている方が大半ですので、先ほどの価値観という意味ではコミュニティの中にあります。学生なり、可能であれば転出していった人たちなどの意見を聞く機会があれば参考になると思います。</p>
C委員	<p>どんなことでもプラス、マイナスの両面があると思います。ですから、価値観を考えながら要因を出すのではなく、まずは色んな事を出し合ってみることが必要だと思っています。</p>

A 委員	<p>協働社会と言われていますが、若い人たちに協働で時間を取られることは大変だと思います。協働というのは非常にいい言葉だと思いますが、若い人たちが協働に時間を取るとは難しいと思うし、自由でありたいと思う、だからプラスマイナスどちらを取るかということも考えなければならぬと思います。また、行政も要望ばかりの議論になることは避けてほしいといわれておりましたが、この問題は行政として取り組むべきことも議論する必要があります。はじめから議論の枠を狭めると、議論も進まないと思います。</p>
D 委員	<p>(転出要因は) 個人の価値観の問題ですから、この場で議論しても正しい結論が出ないかもしれない。しかし、なんとか良いまち、良い状況に持っていきたいという思いが根本であるので、それに沿ってやっていかなければならぬのかと思います。</p> <p>また、人口が減っていくことは、税収が下がるなど考えられますが具体的に何か問題があるのですか。</p>
事務局	<p>グループワークのテーマについては、この後少し休憩をいただき、会長・教授・事務局で相談をさせていただきたいと思います。</p> <p>また、人口減少に伴う問題ですが、生産年齢（15～64 才）といわれる若い人が市外へ転出されるということは、ご想像のとおり税収がさがります。そうすると、行政サービスの低下につながる可能性も否めません。高齢化社会と言われておりますので、今後、医療や介護の利用者増加も考えられます。具体的な問題というか、懸念されることとして、行政サービスの低下があります。</p>
E 委員	<p>海津町は農業（農家）、南濃町は新興住宅と自然、平田町はお千代保さん中心で、地域の特性が異なります。そういう違い、事情をまず把握する必要があると思います。交通の問題や生活環境、子育て支援など、抱えている問題もそれぞれ違うと思いますので、そういった部分を知ることが必要だと思います。</p>
F 委員	<p>こういった委員会が、今回で終わりというわけではないので、この中でできる成果というよりも、市民の人たちがまちづくりに参加する意欲を育てることが大切だと思います。</p>
事務局	<p>ここで、一度休憩をとらせていただきます。</p> <p>(休憩)</p> <p>それでは、グループワークに入りたいと思いますが、テーマを若年層の人口流出についてとさせていただきます。価値観等の話がありましたが、まずはそれぞれの立場で色々な意見を出し合ってくださいと思います。意見を出し合い、その後、諸々の問題を議論していただければと思いますので、よろしくお願いします。</p> <p>【グループワーク概要】 テーマ：若年世代の市外流出について要因を洗い出す 方 法：2 グループに分け、若年層の人口流出の具体的な要因を出す</p> <p>(グループワーク終了 別紙参照)</p>
池永教授	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、先ほどのグループワークを振り返りまして、池永教授からご講評をいただきました</p>

	<p>いと思います。</p> <p><講評></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ グループワークで出た意見と統計上でのデータを見てみると、例えば不便だと考えている交通の問題ですが、統計上では転出理由が住宅事情の問題が多い、こうした違いを考えてみることも必要です。今後色々な角度からの検証が必要ではないでしょうか。 ・ 学業の問題で、東京や大阪などに出て行ってしまうということは、見聞を広めるという意味で阻止する理由もないし、むしろ経験を積んでくるということで良いことだと思いますが、問題はその後、海津に戻ってこないということで、東京・大阪での知見をふるさと海津で活かしてもらう道がないということだと思います。そうしたことも考えなければいけないと思います。そのほか、揚げられた要因について時間をかけて深く議論をしていただきたいと思います。 ・ 3町それぞれの歴史や生い立ち、状況が違う町が集まって合併しているので、それぞれのまちの認識を深めていくことで問題・解決に通じていくのではないのでしょうか。
事務局	<p>ありがとうございました。</p> <p>続きまして、事務連絡をさせていただきます。</p> <p><事務連絡></p>
F委員	<p>今後、地元の人（まちづくり等の実践者）との意見交換会の予定はありますか。</p>
事務局	<p>予定しています。今日の議論の中にもありましたが、地域性や価値観の違いというのが当然あって、この分科会だけでは議論するのに難しい部分もあるので、外部との意見交換などは必要になると思います。時期は会議の進行をみながら考えていきたいと思いますのでよろしくお願いします。</p>
D委員	<p>海津市は農業が盛んですが、農業とまちづくりをテーマに議論する機会があると良いかと思えます。</p>
事務局	<p>H19～20年度、まちづくり委員会のグリーン・ツーリズム検討分科会で、農業や自然環境を活用したまちづくりについて検討し提案書が作られました。次回、お持ちしたいと思います。今後「農業とまちづくり」ということについて議論できるような材料も探していきたいと思いますので、少し時間をいただきたいと思います。</p> <p>それでは、企画政策課長の木村より、あいさつをさせていただきます。</p> <p><あいさつ></p> <p>大変長時間にわたりまして、ご協議をいただきまして誠にありがとうございました。以上をもちまして海津市まちづくり委員会「第3回ふるさと定住促進検討分科会」を終了いたします。</p>

- ・ 海津市は恵まれた地理環境（都市部に近い、平地など）にありながら人口の減少率（流出）が高い、そういった現実を市民目線で議論していただき、住み続けていただける方策ができればと期待しています。
- ・ 海津市に住んでみえる方々が幸せになっていただき、住んでいて良かったと思っただけのようなまちづくりをしていきたいという思いで本分科会を立ち上げました。この分科会で一つの答えを出すことにとらわれず、両論併記でも結構ですので、みなさんがまちづくりに対して求めている率直なご意見をいただければと思います。